

ハイデルベルク信仰問答より

問 98 しかし、画像は無学な者のために、書物の代りとして、教会の中で許されているではありませんか。

答え いいえ、許されてはいません。それは私たちが神より賢くなろうと試みてはならないからであり、神は生命のない偶像によるのではなく、神の生ける御言葉の説教によって、ご自分の民を教えようと欲しておられるからであります。

第二戒 あなたは刻んだ像を作ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるすべてのものの、いかなる形をもつくってはならない。あなたはそれらにひれ伏し、それらに仕えてはならない。それは、主なるあなたがたの神である私が、ねたみ深い神であるからである。私を憎む者については、父の罪を子に報いて三、四代まで罰するが、私を愛し、私の戒めを守る者については、千代までも不動の愛を示すであろう。

神を^{かたち}像にすることの問題点が繰り返し議論されていますが、ここで質問者は、文字よりも絵画の方が初心者にとって理解しやすいのではないかと問うています。実際、聖書絵本などには必ず絵が載せられていますし、教会堂の壁には何らかの絵が飾られていることが多いです。しかし、そのほとんどは「神」を描いたものではないはずであり、少なくともプロテスタントの教会では神をイメージ化することを避けているように思われます。では、逆に問うてみましょう。神を描くのはダメであるのに、イエス様を描くのはよいのでしょうか。イエス様の絵は聖書絵本だけでなく、聖書関連書の挿絵の中にも数多く登場します。そして、それに違和感を覚えたという人は少ないのではないのでしょうか。

数学的には、「 $A=B$ 」であるならば「 $B=A$ 」という公式が成り立ちますが、「イエス・キリストは神である」を「神はイエス・キリストである」と置き換えることはできません。言葉遊びのようですが、「イエス・キリストは神である」は正しく、「神はイエス・キリストである」は正しくないのです。正確に言うならば、「三位一体なる神の第二位格にイエス・キリストは^{いま}在す」となります。イエス様を絵画として描くとき、それは神そのものを描いているのではなく、人として地上の生涯を歩まれた神の子イエスを描いているのです。それに対し、私たちは父なる神様も聖霊も描くことはできません。なぜなら、この二者は姿形を持たない「霊」であるからです。

答えの中に「神の生ける御言葉の説教によって、ご自分の民を教えようと欲しておられる」という印象的なフレーズが出てきます。キリスト教は「ことばの宗教」と言われることがありますが、「ことば」は本来目に見えないものであり、耳で聞かれるべきものです。福音は「ことば」として語られ、「聞くこと」によって受け取られます。福音には論理があり、整合性のとれたストーリーとして伝えることができます。いえ、聖書全体は一貫した「神の物語」なのですが、その構造を解説する説教者がいなくてはならないのです。説教とは本来、「見る」ものではなく「聞く」べきものだとも言われます。聞いて、理解し、心で受け留め、応答する。それが、神が宣教の手段として採られた原則なのです。